

【商工業分野】地域の団体・事業者との意見交換会概要

区分	実施日	地域団体等（参加人数）		
		団体	市町村等	計
（一社）高知県工業会	R元.7.18	23		23
高知県中小企業家同友会	R元.7.29	7		7
（一社）高知県情報産業協会	R元.7.10	7		7
高知県IoT推進ラボ研究会	R元.7.25	14		14
IT・コンテンツビジネス起業研究会	R元.7.19	10		10
（一社）高知県製紙工業会	R元.7.12	6		6
高知県・高知市商店街振興組合連合会	R元.7.30	17	1	18
高知県商店街振興組合連合会（幡多地域）	R元.8.5	16		16
高知県中小企業団体中央会・青年中央会	R元.7.30	8		8
商工会・商工会議所（幡多ブロック）	R元.6.14	18		18
商工会・商工会議所（高幡ブロック）	R元.6.19	12		12
商工会・商工会議所（安芸ブロック）	R元.6.19	10		10
商工会・商工会議所（仁淀川ブロック）	R元.6.25	11		11
商工会・商工会議所（嶺北・物部ブロック）	R元.6.26	12		12
商工会・商工会議所（高知ブロック）	R元.7.30	10		10
計		181	1	182

1 地域の現状と課題の確認

(1) 人材の育成・確保

○人手不足、後継者不足が深刻化しており、人材の確保・育成が大きな課題。

＜製紙工業会、中小企業団体中央会・青年中央会、商工会・商工会議所 他＞

○一番の課題は、人材・マンパワーが地域では足りないこと。産業によっては賃金を上げられない事情があったり、仮に上げたとしても人がいないという状況。高齢化が進んでいるが、高齢者だけでは限られた仕事しかできないので、若者から高齢者までのバランスが重要。

＜中小企業家同友会＞

○当社では約17年で海外の研修生を約100名卒業させた。最近では中国は売り手市場でレベルが落ちているというのが現状であり、ミャンマーで学校を開くことにした。高校生を約200名、大学生を約100名入れて、1年間日本の教育をして、来日させる計画を進めている。

＜工業会＞

(2) 地産の強化・外商の強化

○高知の場合は単品物が多く、手間のかかるものが多いので、大量生産の場合と生産性を単純に比較することはできない。時間外の規制等の法律を守りながら新たな受注等に対応していくことには苦しい面がある。＜工業会＞

○原材料や人件費などのコストが上昇しているため、営業利益が減少。製紙工業は大手も利益を上げられていない厳しい業界。運転手の不足等により輸送コストも上がっているうえ、高知県は他県と比較して運賃が高いことが問題。＜製紙工業会＞

(3) 地域商業の活性化

- 商店街では、特に物販関係はネット販売等の影響があり厳しい状況。また、店主の高齢化等に伴う、事業承継が大きな問題。人手不足のため従業員の確保も難しい状況。〈県・市商店街振興組合連合会〉
- キャッシュレス対応は、手厚くセミナーもあるが参加者が少ない。ポイント還元の話もしているが、十分には理解してもらえていない。高齢の店主が対応できていなかったり、手数料の問題などで、まだまだ浸透していない。〈県・市商店街振興組合連合会〉

(4) 高知版 Society5.0 の実現

- 若手 10 名ほどで IoT のワーキングを発足し、早速県からもお話をいただいております。県の動きが早くて感謝をしている。先進的な取り組みも進めていきたいという企業もたくさんあると思うので、よろしくお願ひしたい。〈工業会〉
- IT 化を進めるにあたっては、IT 人材が少ないということもあるが、IT を導入する側の企業が自社の業務に忙しいなどの理由で社内の体制が築けず、新しいことに手を出せないという状況も多い。〈IT・コンテンツビジネス起業研究会〉

2 現在の県産業振興計画の評価

(1) 県経済への寄与

- 産業振興計画が策定されて 10 年が経ち、製造品出荷額、有効求人倍率等各指標も向上し、10 年前と比べて高知県経済の活性化に寄与していると思う。地域アクションプランの策定もいくつかあり、勢いが良い部分もあるが、一方で、現実には課題が山積している事業者もいるので、商工会としての支援もより必要になってくると思う。
〈商工会・商工会議所（嶺北・物部川ブロック）〉
- 企業立地の補助金については、手厚い支援をいただき感謝している。しかし、有効求人倍率が上昇している状況下において、雇用の要件については従業員の待遇改善を含めた成果で評価をするなど、検討をお願いしたい。〈工業会〉
- 地域支援企画員の配置によって、県との連携が密にとれるようになった。観光のクラスターも形成されつつあり、地域の状況は良くなってきている。
〈商工会・商工会議所（仁淀川ブロック）〉

(2) 人材の育成・確保

- 地元就職に関する取り組みを充実していただいているのは非常にありがたいが、工業高校の県内企業への就職割合はほぼ変わっていない。大手企業が前年から働きかけをしていることもあって難しいと思うが、例えば、工業高校に限らず普通科でもインターンシップを充実することも考えていく必要があると思う。〈工業会〉

(3) 地産の強化・外商の強化

- 最近、食品分野で外商を考える事業者が増えてきた。高知県版 HACCP の影響も大きいと思う。地産・外商に関して、県の施策で「安心安全」のイメージが付加されて、バイヤーへの流れができており、商工会議所としても伴走支援をしやすい。
〈商工会・商工会議所（高知ブロック）〉
- 地産外商の促進の取り組みは、販路開拓を求めている小規模事業者にとって効果が表れてきている。地産外商を進める事業者が増え、他の事業者の活力になっている。一方、人口減少とともに域内の需要が減少し、供給過多になっている事業者もいるので、需要のある都市部とのマ

- マッチングができるような施策があれば良いと思う。〈商工会・商工会議所（幡多ブロック）〉
- 産業振興計画が商工業者の刺激となり、地域のブランド化や地域資源の発掘、地域資源を活用した商品開発は一段と進んだと思う。しかし、地域の事業者の生産体制は、大きなマーケットに打って出るには脆弱で、資金面でも課題がある。流通コストを考えると、今後は地域に来て買っていただく取り組みも必要だと思う。〈商工会・商工会議所（高幡ブロック）〉
 - 地域の商工業者で県外への販路拡大を目指す者にとっては、支援施策及び支援機関充実により大きく追い風になったと考える。〈商工会・商工会議所（嶺北・物部川ブロック）〉

（４）地域商業の活性化

- チャレンジショップや空き店舗対策の事業は、継続性に課題はあるものの移住者による創業がみられるなど、一定の成果をあげている。
〈商店街振興組合連合会（幡多ブロック）、商工会・商工会議所（嶺北・物部川ブロック）〉
- 産業振興計画の第２期目頃から、産業振興計画に商店街活性化の文字が頻繁に出始めた。商店街が必要という県の姿勢の表れだと思っている。高知市中心商店街以外の地域の商店街も、町の中心であり必要なので、商工会・商工会議所と一緒に県もバックアップをお願いしたい。
〈県・市商店街振興組合連合会〉

（５）高知版 Society5.0 の実現

- IoT の製品開発については、ニーズ側の課題に合わせた製品化は自社で作りたい物を作るのと異なりコスト高になったり、社内で反対意見が出てくる可能性もあるので、マッチングをうまくすることが必要。市場があるかどうかなどの背景の調査に時間がかかるため、県からも情報をいただきたい。〈情報産業協会〉
- IoT 推進ラボ研究会の取り組みを３年間やってきて成果があったと考えている。ただし、課題解決のための製品ができた後の製品のブラッシュアップが重要である。
〈IoT 推進ラボ研究会〉

3 県産業振興計画の次のステージに望むこと

（１）人材の育成・確保

- 間違いなく人口減少、高齢化は進んでいくため、Uターンや外国人の雇用も必要となる。色々な手を打っていかねばいけないので、県も積極的にやっていただきたい。高知県に縁のあるなしに関わらず高知で働く流れを作ってもらいたい。〈製紙工業会〉
- 人生 100 年時代に向けて、長年培ってきた技術・技能を持った高齢者を活用することで生産能力が上がるのではと思う。そういう方面に力を入れることも良いのではないか。〈工業会〉
- 高校生ぐらいから就職に関してのキャリアパスの考え方が必要。若い世代から色々な仕事を見せるなど、早くからきっかけづくりの教育が必要ではと思う。
〈IT・コンテンツビジネス起業研究会〉

（２）地産の強化・外商の強化

- 人口減少にどう対応するかが課題であると考えている。東京のマーケットも飽和しつつあるため、海外展開に向けてどうするか考えていく必要がある。
〈商工会・商工会議所（高知ブロック）〉
- 農業分野での６次産業化が加速化しているので、それに対する支援があれば良いと思う。
〈商工会・商工会議所（安芸ブロック、高幡ブロック、仁淀川ブロック）〉

(3) 地域商業の活性化

○大型客船来港による経済効果は、“消費のゴールデンルート”と呼ばれる高知市内の商店街や観光地に限られており、地方の小規模事業者はその恩恵を受けているとは言いがたい。地方の商店や観光地にも恩恵が得られるように、県と商工会・商工会議所が協力しながら受け入れ体制を作ることが必要。〈商工会・商工会議所（高知ブロック）〉

(4) 事業承継

○できることをやっていくということが一番重要で、地域のコンテンツを掘り起こすことができればもっと面白いのではと思う。例えば、昔からあるお菓子を若い女性に渡したら美味しいし、可愛いという反応があったが、店主はもういよいよ辞めるといふ雰囲気が出てきており、なくなってしまうのはもったいない。〈中小企業家同友会〉

(5) 高知版 Society5.0 の実現

○IoT に関しては、ものづくり系企業とIT企業が、お互いを学ぶというような方法を取らないとシナジーは生まれない。業種による文化・用語の違いが障壁となり、その業界の常識が分からないため、双方が理解できるような取り組みが必要。〈情報産業協会〉